令和8年（2026年）6月定例会　一般質問

周遊滞在型観光戦略の推進について

質問議員：堀内富夫（里山未来クラブ）

◆小項目1　映画『箱の中の羊』と熊野の大トチの活用

◆小項目2　比婆山連峰エリアの一体的活用と宿泊予約デジタル化

◆小項目3　地域コンシェルジュの発掘・育成と観光動線の設計

◆小項目4　観光の基盤産業化に向けた方向性と戦略

※本文字起こしは精密文字起こしテキストをそのまま収録したものです。
※一部、記録が途中で終了している箇所があります（末尾部分）。

小項目1　映画『箱の中の羊』と熊野の大トチの活用

◆ 堀内富夫（議員）

最初に1点目、令和8年（2026年）5月29日に是枝裕和監督作品、映画「箱の中の羊」が全国ロードショーになりましたが、この映画、昨年の10月に西城町の熊野の大トチでの撮影が行われ、カンヌ国際映画祭にも出品されるなど注目を集めた作品ですが、この映画の上映を機に熊野の大トチへの来訪者の増加が見込まれます。天然記念物の保護・安全確保・近隣住民への配慮など、市としてどのような支援を考えておられるのかお聞かせください。

▶ 八谷雅彦市長

映画「箱の中の羊」についてでございますが、是枝裕和監督が撮影現場として選ばれた熊野の大トチは国指定天然記念物であり、今後もこの映画のヒットに伴いまして多くの方が熊野の大トチを訪れることが見込まれます。

是枝監督が度々この大トチに言及されており、映画が広く公開されることで更に注目が高まるものと思っております。

市といたしましては文化財保護法に基づく保護対策を適切に実施してまいります。また、市のホームページの内容をリニューアルいたしたところでございます。また広島フィルムコミッションと連携した巡回のパネル展を開催する予定としております。

庄原市の豊かな自然に宿る魅力が全国に発信される絶好の機会でもあり、市民の方々に「庄原市の資源がこのような形で注目されている」ということをお伝えし、地元への愛着や誇りの醸成につなげていく機会にしたいと考えております。

◆ 堀内富夫（議員）

ありがとうございます。この映画は旬のものでして、いずれブームというのは去っていくかと思います。1度来た方が「また庄原に来たい」という、再訪意欲につながるような施策を考えておられますか。また、庄原での上映会という可能性はいかがでしょうか。

▶ 観光振興課長

一過性の盛り上がりとならないよう、今年度策定をいたします観光振興計画の中でこの熊野の大トチをはじめとして庄原市の観光資源を磨き上げ、そして面として繋いでいくという取り組みを設計してまいりたいと考えております。再訪意欲をかき立てるものに仕上げてまいりたいと思っております。

▶ 生涯学習課長

映画の上映会につきましては、庄原市民会館での上映を行えるよう、現在フィルムコミッション及びプロダクションと調整中でございます。

◆ 堀内富夫（議員）

ありがとうございます。上映会については調整中ということで楽しみにしておきたいと思います。

もう1点、この映画の撮影に際しまして植物・樹木の専門家、伊藤先生が大変尽力されたと伺っております。こうした市内に在住されている専門家がいるということ自体も庄原の魅力・財産として発信していただけないでしょうか。また、谷口議員も取り上げておられましたけれども、少子高齢化の中で「昔の価値を知っている人」がいなくなってしまうということが非常に懸念されます。知識の継承や学習の機会を設けることはできないでしょうか。

▶ 生涯学習課長

専門家の方のアピールというご提案については、そのようなところにも光を当てることを考えていきたいと思います。

知識の継承につきましては、文化財講演会など機会を捉えて実施してきているところでございます。なかなか難しいかとは思いますが、色々な場面でそういうことを行ってまいりたいと考えております。

小項目2　比婆山連峰エリアの一体的活用と宿泊予約デジタル化

◆ 堀内富夫（議員）

2点目は、比婆山連峰エリアの一体的な活用についてです。比婆山連峰は比婆道後帝釈国定公園の一部であり、初心者から上級者まで楽しめる登山道、希少な山野草、神話や歴史との関わり、たたら製鉄の史跡など多くの魅力を持つエリアです。比婆山ロッジは現在解体が進んでいますが、この比婆山連峰エリアを市の観光の目玉として、登山や自然体験から宿泊・飲食・物産・周辺観光へと続く周遊滞在の拠点として一体的に活用・設計する考えはございますか。

▶ 八谷雅彦市長

比婆山連峰は初心者から上級者まで楽しめる登山道があり、山野草、神話のゆかりの地、たたら製鉄の史跡など魅力あふれる山だと思っております。一方で、山単体では消費・交流活動を必ずしも伴わないため、周遊の仕掛けが必要と考えております。

今年度、第3期観光振興計画と観光消費額増加戦略を策定することとしており、その中でニーズ調査やマーケティング分析を実施し、比婆山連峰エリアを含む庄原市の観光資源を磨き上げ、一体の周遊設計を具体的に検討してまいりたいと考えております。県や地元との協議も並行して進めてまいります。

◆ 堀内富夫（議員）

ありがとうございます。現在比婆山ロッジが解体されていまして、今は仮設のトイレが設置されているという状況ですが、利用された方から苦情も出ていると聞いております。跡地にどの程度の施設を設けるのか、市としてのお考えやビジョンをお示しいただけますか。

また、比婆山の最寄りの宿泊施設であるカサベルデについてですが、現在電話予約のみとなっております。登山客・アウトドア客を積極的に取り込んでいくためには、ネット検索で引っかかってネット予約ができるという今風の仕組みが必要ではないかと思いますが、いかがでしょうか。

▶ 観光振興課長

比婆山ロッジの跡地利用でございますが、比婆道後帝釈国定公園は広島県が所管しており、県において跡地活用が検討されていると聞いております。市としては登山に来た方が困らない程度の施設、具体的には山小屋・避難小屋的なものと水洗トイレの設置を県に要望してまいりたいと考えております。

カサベルデのネット予約についてですが、導入にあたっては費用や維持管理経費も考えないといけないと思っております。諸課題を整理いたしまして、課題や効果を検証しながら研究をしてまいりたいと思います。

小項目3　地域コンシェルジュの発掘・育成と観光動線の設計

◆ 堀内富夫（議員）

3点目は地域コンシェルジュの発掘・育成についてです。コンシェルジュというのはフランス語で、もともとは巡礼者の案内役という意味があります。プロのガイドではなく、各地域に根ざした方が「ちょっとした案内や地域の歴史を話す」程度でもよいと思います。副業として少しでも収入が得られる仕組みと、「自分が住む地域に誇りを持ち、外から人が来たら紹介したい」というシビックプライドの醸成を組み合わせることで、担い手を発掘・育成できないでしょうか。

また、DMOのホームページを見ていますと、各地域へのページはあるものの、「どこを起点にどう行けばいいのか」という観光の動線が見えづらいと感じます。旧1市6町それぞれを起点とした動線設計の構築は可能でしょうか。

▶ 八谷雅彦市長

地域コンシェルジュの育成については、第2期観光振興計画においてローカルガイドツアーを庄原DMOが実施をいたしまして好評をいただいたところでございます。しかしながら新たなガイドの獲得には至りませんでした。要因としては、需要が限られて

おり安定した報酬を得ることが難しいため、担い手としての活躍イメージが湧きにくいということが考えられます。

第3期計画の中で、ガイドとして具体的な活躍場面を想定しながら発掘・育成の方向性を改めて検討してまいりたいと考えております。

▶ 観光振興課長

ボランティア的な方がたくさん出てくれれば一番よいわけですが、現状ではなかなか難しいと認識しております。副業として安定して収入が得られる環境整備をすることで持続可能な担い手を作っていくことが必要と考えております。またシビックプライドを持った担い手の発掘につきましても今後取り組んでまいりたいと思っております。

動線設計につきましては、第3期振興計画の策定の中で各地域の資源を磨き上げ、それを繋いでいく形のものを作っていく予定にしております。今年度の計画の中でそういった仕組みづくりをやっていく予定でございます。

◆ 堀内富夫（議員）

ありがとうございます。副業として収入が得られる設計ということ、それにシビックプライドを加えることで「自分から紹介したい」という方が出てくるのではないかと思っております。是非ともそういった取り組みを進めていただきたいと思います。

小項目4　観光の基盤産業化に向けた方向性と戦略

◆ 堀内富夫（議員）

4点目は周遊滞在型観光の全体戦略についてです。令和7年3月に国の第5次観光立国推進基本計画が閣議決定されています。観光DX、関係人口の創出、観光産業の強靭化、地方への誘客促進が重点とされています。庄原市においても令和8年度リーディングプロジェクトとして「観光の基盤産業化の推進」が掲げられています。

先ほどから申し上げてきた映画・熊野の大トチ、比婆山連峰、地域コンシェルジュ、動線設計、こうした施策を一体的に設計するためには「人とつながれる庄原」という体験価値を核に据えた総合的な戦略が必要だと思います。自然環境・登山・アウトドア・飲食・物産・住民連携・デジタル整備を一体設計した周遊滞在型観光の戦略について市の方向性をお示しください。

▶ 八谷雅彦市長

「地域にしかない資源を掘り下げることで他にはない価値を生み出すことが特に重要」と考えております。地域に連綿と受け継がれてきた暮らしの知恵・文化・景観、そして今生きる人々こそが、ここにしかない価値を生み出す源泉であると思っております。

庄原市の豊かな自然・文化・歴史・食など多様な資源を組み合わせた事業展開と、「庄原に来ると人と出会える」という体験価値を作り出すことは非常に大切な考え方だと思っております。

令和7年3月閣議決定の第5次観光立国推進基本計画では観光産業の強靭化・関係人口の創出・観光DX・持続可能な観光地づくりが重点とされており、この方向性と連動しながら積極的な観光客誘致に取り組んでまいりたいと考えております。

今年度策定いたします第3期観光振興計画と観光消費額増加戦略の中で、議員ご指摘の各施策を一体的に設計し、観光を地域の基盤産業として育てていく道筋を描いてまいります。

◆ 堀内富夫（議員）

ありがとうございます。「人とつながれる庄原」という体験価値の考え方を市長にもご共有いただけたと受け止めております。第3期観光振興計画の策定にあたりましては、是非ですね、そのあたりしっかりやっていただきたいという風に思っております。第2期に関

▶

※以降の記録は入手できていません。（文字起こし原稿はここで終了）